

豊郷町隣保館だより

2024年6月28日発行 豊郷町隣保館 ☎0749-35-0611 No.243



二度と戦争を繰り返さない、その思いで「平和の礎」がある摩文仁の丘は、早朝から夜まで祈りを捧げる人たちが訪れます。

『平和が欠ける怖さを知っている』
6月23日は「沖縄慰霊の日」

沖縄は23日、沖縄戦の組織的戦闘が終結したとされる「慰霊の日」を迎えました。

多くの一般住民を巻き込み、悲惨な地上戦などが展開された沖縄戦から79年。県内各地の慰霊塔や戦跡には多くの人々が訪れ、再び戦場にならないようにと不戦の誓いを新たにしました。

戦争で亡くなった20万人余りを悼み、世界の恒久平和を願う「沖縄全戦没者追悼式」が糸満市摩文仁の平和祈念公園で開かれました。

平和祈念公園には早朝から多くの遺族らが訪れ「平和の礎（いしじ）」に花を手向け、手を合わせていました。平和の礎には国籍を問わず、沖縄戦などで命を落とした人々の名が刻まれています。

今年、県出身の24人を含む181人が追加され、刻銘総数は24万2225人となりました。

追悼式では、県立宮古高校3年の仲間友佑さんが自作の平和の詩【これから】を朗読しました。

世界で戦争が続くことに対して【平和が欠ける怖さを僕たちは知っている／もっともっとこれから僕らが祈りをつなぎ続けよう】と誓いの想いを込めました。仲間さん自身、身内から戦争経験の詳細を聴くことは叶わない世代であり、幼い頃に受けた平和学習はどこか人ごとだった。でも成長し、世界に関心を持つにつれ「戦争は過去のものではない」と実感し、今回の詩につながったということ。沖縄が「慰霊の日」を迎えるたびに今、私たちが当たり前のように過ごしているこうした日常こそが「平和」なのだ改めて感じています。今ある日々を大切に過ごしていきたいですね。